

総会議事再提案について

平素より学会運営にご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございます。

去る 2017 年 6 月 17 日新潟大学にて 2017 年度総会を開催する予定でしたが、出席者が学会規約の定める定足数に達せず総会が成立しませんでした。学会規約 21 条では「総会の議決は正会員の 3 分の 1 以上出席し、出席正会員の過半数によって決める」としています。総会開催の前日 2017 年 6 月 16 日現在の会員数は 1158 名であり、総会成立にはその 3 分の 1 となる 386 名の出席が必要でした。しかしながら、出席者の人数は総会開始予定時間の集計で、事前申し込みがあり受付で手続きをした会員 78 名、当日参加申し込みをした会員 36 名、委任状 165 通、計 279 名でした。定足数には 107 名の不足となりました。

総会が成立しなかった場合の措置について第 35 期理事会で検討し、会報に総会議事資料を提示し、改めて正会員のみなさまの承認をいただくことといたしました。会員のみなさまにおかれましては、本会報に掲載している総会議事資料をご一読いただきたく存じます。そのうえで総会議事資料にご質問がある場合には、**2017 年 7 月 31 日（月）までに学会事務局 (mscom@jmscom.org)** にご連絡いただきますようお願いいたします。

いただいたご質問に対する回答を学会サイトに掲示しますので、閲覧していただいた後、総会議事資料に異議がある場合には、**2017 年 8 月 31 日（木）までに学会事務局**にご連絡いただきますようお願いいたします。そのうえで、会員からの異議が総会での議決に必要な定足数（386 名）の 2 分の 1 である 193 名に達しない場合は、理事会からの総会議事資料提案に賛成いただいたものとみなし、9 月 1 日より第 36 期理事会を発足させ、理事会業務を移管します。なお、学会業務の遅滞をなくするために、第 35 期理事会は第 36 期理事・監事候補者に 8 月 31 日まで業務を委託しています。

以 上

I. 2017 年度総会議事資料

2016 年度一般会務報告

1. 概 要

- (1) 第 35 期（2016 年度）の学会運営体制と理事の役割分担（氏名は 50 音順、◎は委員長・部会長、所属は就任時のもの）

[会長]

大石裕（慶應義塾大学）

[総務担当]

藤田真文（法政大学）

[渉外担当]

藤田真文（法政大学）

[企画委員会担当]

◎小林義寛（日本大学）、松浦さと子（龍谷大学）、◎山田健太（専修大学）

[編集委員会担当]

◎伊藤高史（同志社大学）、土屋礼子（早稲田大学）、村上聖一（日本放送協会）

[国際委員会担当]

◎鈴木雄雅（上智大学）、黄盛彬（立教大学）、山本賢二（日本大学）

[研究活動委員会担当]

橋元良明（東京大学）

[理論研究部会担当]

◎難波功士（関西学院大学）、渡邊久哲（上智大学）

[ジャーナリズム研究・教育部会担当]

◎阿部圭介（日本新聞協会）

[放送研究部会担当]

◎笹田佳宏（日本民間放送連盟）、谷岡理香（東海大学）

[メディア史研究部会担当]

◎河崎吉紀（同志社大学）、山口誠（獨協大学）

[メディア倫理法制研究部会担当]

伊藤高史（同志社大学）、◎上原伸元（東京国際大学）

[メディア文化研究部会担当]

石田佐恵子（大阪市立大学）、◎小川博司（関西大学）

[ネットワーク社会研究部会担当]

◎大谷奈緒子（東洋大学）、橋元良明（東京大学）

[監事]

古川良治（成城大学）、柳澤伸司（立命館大学）

[事務局幹事]

烏谷昌幸（慶應義塾大学）、三野裕之（尚美学園大学）、山腰修三（慶應義塾大学）

- (2) 春季（東京大学）および秋季（帝京大学）での研究発表会、日韓国際シンポジウム、各研究部会が企画する研究会等が開催された。これらについては、企画委員会、日韓国際シンポジウム実行委員会、研究活動委員会、研究部会からの報告を参照されたい。

2. 会 員

(1) 正会員数

2016年度の正会員数（2017年1月31日現在）は、前年度と同数の1186名であった。最近5か年の正会員数の推移は以下のとおり（カッコ内は2012年度を100とした割合）。

2012年度 1280名（100）

2013年度 1276名（99.7）

2014年度 1222名（95.5）

2015年度 1186名（92.7）

2016年度 1186名（92.7）

- (2) 会員資格
 - 名誉会員 5名
 - 正会員 1197名 (70歳以上94名)
 - 準会員 0名
 - 賛助会員 24機関

- (3) その他
 - 平井隆太郎 元理事 逝去

3. 2016年度主要活動

- (1) 理事会の開催
 - 第35期(2016年度)に6回の理事会を開催した。理事会では、各委員会・研究部会から提出された審議事項を検討し、合わせて報告事項などの承認を行った。
- (2) 運営体制
 - 2016年度は「1.概要」に記載した運営体制で会務を行った。
- (3) 総会および春季研究発表会
 - 2016年6月18日(土)・6月19日(日)の両日、東京都文京区の東京大学本郷キャンパスにおいて総会・春季研究発表会を開催した(企画委員会報告参照)。併せて第7回マス・コミュニケーション学会優秀論文賞の授与式が行われた。
- (4) 秋季研究発表会
 - 2016年10月29日(土)、東京都八王子市の帝京大学八王子キャンパスにおいて2016年度秋季研究発表会を開催した。
- (5) 「日本マス・コミュニケーション学会 会報」の発行
 - 35期(2016年度)は第286号(2016年8月16日付)から290号(2017年4月24日付)まで5号分を発行した。
- (6) 学会誌『マス・コミュニケーション研究』の刊行
 - 2016年度は、第89号(2016年7月31日付)、第90号(2017年1月31日付)を刊行した(編集委員会報告参照)。
- (7) 国際シンポジウムの開催
 - 2016年7月9日(土)、日本大学法学部(三崎町キャンパス)において、本学会と韓国言論学会の共催による第22回日韓(韓日)国際シンポジウム「メディアと政治、再考」を開催した(日韓国際シンポジウム実行委員会報告参照)。
- (8) 第6回内川芳美記念マス・コミュニケーション学会賞選考委員会を設置した。
- (9) IAMCRでのジャパンセッションの設置

2016年7月27日(木)から7月31日(日)まで、英国レスター大学で開催されたIAMCR (International Association for Media and Communication Research) 大会にジャパンセッションを設置し、司会者1名、報告者3名、計4名の会員を派遣した。

(10) 『マス・コミュニケーション研究』のJ-STAGEへの移行作業

国立情報学研究所の電子図書館事業(NII-ELS)が2017年3月で終了することにもない、『マス・コミュニケーション研究』のWeb公開を科学技術振興機構のJ-STAGEへと移行する手続きを進めた。

(11) 学会会員名簿の「マイページ」システムへの移行

2017年6月1日より「マイページ」の会員検索機能を利用した会員名簿のデータベースの提供を開始した。これに伴い冊子の会員名簿を廃止した。

(12) 理事選挙の実施

2017年1月1日の正会員名簿をもとに2017年2月に理事候補者選挙を行った。

(13) 会員に対する情報提供

春季・秋季研究発表会のほか、各委員会・研究部会からのお知らせや報告、各種行事、入会案内、公募情報などを、会報、サイト、メールマガジンを通じて提供した。

(14) 事務局体制

2016年度は、慶應義塾大学内の個人研究室に事務局を設置した。業務委託先である(株)国際文献社が、会費請求、名簿情報の変更の受付、入退会の申請の受付等の業務を担当した。

4. 2017年度主要学会活動計画

第36期・2017年度に計画されている主な学会活動は以下のとおりである。

(1) 総会および春季研究発表会

2017年6月17日(土)・18日(日)、新潟県新潟市の新潟大学(五十嵐キャンパス)で開催される。第6回内川芳美記念マス・コミュニケーション学会賞の授与式を行う。

(2) 秋季研究発表会

2017年10月28日(土)、東京都世田谷区の成城大学で開催する予定である。

(3) 第23回日韓国際シンポジウムの開催

韓国言論学会との共催により2017年8月26日(土)、韓国ソウル市淑明女子大学で「ジャーナリズムの危機と役割」をテーマに開催する予定である。

(4) 学会誌、会報の発行

学会誌『マス・コミュニケーション研究』、「日本マス・コミュニケーション学会会報」を発行する。

(総務担当理事)

渉外担当

(1) 社会学系コンソーシアム主催第9回シンポジウムにおける会員の報告

社会学系コンソーシアム主催第9回シンポジウム「現代社会における分断と新たな連帯の可能性—階層・世代・地域・民族・情報の視点から」（2017年1月28日（土）日本学術会議大講堂）において、本学会の前嶋和弘会員（上智大学）が「アメリカ社会における社会的分断と連帯—メディアと政治的分極化」と題する報告を行った。

(2) 2016 Asian Communication and Journalism Societies Forum への参加

2016年8月22-23日の二日間にわたり、韓国言論学会主催「2016 Asian Communication and Journalism Societies Forum」が韓国・大田で開催され、本学会から大石会長および鈴木弘貴国際委員会委員・前英文ジャーナル編集長（十文字学園女子大学）が参加した。

（藤田真文）

企画委員会

1. 委員会の構成（所属は就任時のもの、◎は委員長）

- ◎小林義寛（理事・日本大学）2017年3月まで委員長
- ◎山田健太（理事・専修大学）2017年4月より委員長
- 松浦さと子（理事・龍谷大学）

阿部るり（上智大学）	関谷直也（東京大学）
林 恭一（日本新聞協会）	原由美子（日本放送協会）
日吉昭彦（文教大学）	本橋春紀（日本民間放送連盟）
山口 仁（帝京大学）	吉岡 至（関西大学）
米倉 律（日本大学）	

2. 委員会の活動

(1) 2016年度秋季研究発表会の開催

2016年10月29日（土）、東京都八王子市の帝京大学八王子キャンパスにおいて、2016年度秋季研究発表会を開催した。午前中には、個人・共同あわせて9本の研究発表が実施され、午後には、10本のワークショップが実施された。参加者は131名（会員130名、非会員1名）であった。

終了後には帝京大学の主催で、展望ラウンジ（ソラティオ・スクエア21階）にて懇親会が開催され、多数の会員が参加した。

※本研究発表会の開催に当たり、帝京大学の山口仁会員をはじめ、開催校の職員・学生のみなさまから多大なご協力を賜りました。厚く御礼申し上げます。

(2) 2017年度春季研究発表会の開催

2017年6月17日（土）・6月18日（日）の両日、新潟県新潟市の新潟大学五十嵐キャンパスにおいて、2017年度春季研究発表会を開催する予定である。6月17日（土）には、午前中に16本の個人研究発表、午後にはシンポジウム1「トランプ現象とメディアの信頼性をめぐって―選挙、世論、メディア言説における正当性（正統性）―」を、6月18日（日）には午前中にシンポジウム2「新潟のメディア文化―ローカル・コンテンツの危機と可能性―」、午後には12本のワークショップを予定している。

※本研究発表会の開催に当たり、新潟大学の原田健一会員、古賀豊会員をはじめ、開催校の職員・学生のみなさまから多大なご協力を賜りました。厚く御礼申し上げます。

(3) 研究発表会におけるワークショップの開催

2017年度春季研究発表会における企画委員会企画として、以下のワークショップを予定している。

- 2017年度春季研究発表会（2017年6月18日、新潟大学）

インターネット社会において再び『マス』を考える

司会者：山口仁（帝京大学）

問題提起者：津田正太郎（法政大学）

（山田健太）

編集委員会

1. 委員会の構成（所属は就任時のもの、◎は委員長）

- ◎伊藤高史（理事・同志社大学） 土屋礼子（理事・早稲田大学）
村上聖一（理事・日本放送協会）
- 石田英敬（東京大学） 茨木正治（東京情報大学）
逢坂巖（立教大学） 音好宏（上智大学）
小林直毅（法政大学） 阪本博志（宮崎公立大学）
渋谷明子（創価大学） 鈴木秀美（慶應義塾大学）
田中東子（大妻女子大学） 辻大介（大阪大学）
中正樹（静岡大学） 原田健一（新潟大学）
別府三奈子（日本大学） 松井修視（関西大学）
湯浅正敏（日本大学）

2. 委員会の活動

(1) 『マス・コミュニケーション研究』第89号・第90号の発行

第89号を2015年7月末に発行、会員に配布した。特集企画は「変容する『公共言論空間』を考える」で3本の論文を掲載した。投稿論文は23本の応募のうち、査読を経た3本を掲載した。そのほか、2015年度秋季研究発表会のワークショップ報告、2016年2月から3月に開催された研究会の記録などを掲載している。

第90号は、2016年度春季研究発表会のシンポジウム「マス・コミュニケーション研究の現在：理論研究への視座」に基づいた原稿4本を掲載した。投稿論文は30本の中から査読を経た4本を掲載した。また、2016年度春季研究発表会ワークショップの報告、2016年4月から9月に開催された研究会の記録などを掲載し、2017年1月末に会員へ配布した。

(2) 『マス・コミュニケーション研究』第91号の編集作業

第91号では、特集「沖縄とマスメディア」を企画しており、目下、編集作業を進めている。このほか、投稿論文、2016年度秋季研究発表会ワークショップの報告、2016年10月以降に開催された研究会記録を収め、2017年7月末に会員へ配布する予定である。

(3) 『マス・コミュニケーション研究』第92号の募集と企画

「会報」第290号に、第92号の「原稿募集のお知らせ」を掲載して募集を開始した。投稿申込締切は2017年7月6日（木）、原稿送付締切は7月20日（木）である。特集は2017年度春季研究発表会のシンポジウム「新潟のメディア文化」に基づく論文等を掲載する予定である。

* 投稿論文の査読に当たっては、多くの会員にご協力いただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

(伊藤高史)

国際委員会

1. 委員会の構成（所属は就任時のもの）

委員長：鈴木雄雅（理事・上智大学）
副委員長：黄 盛彬（理事・立教大学）
副委員長：山本賢二（理事・日本大学）
委員：伊藤陽一（国際教養大学）
小川浩一
小黒 純（同志社大学）
金山 勉（立命館大学）
小泉恭子（大妻女子大学）
古賀純一郎（茨城大学）
鈴木弘貴（十文字学園女子大学）
内藤 耕（東海大学）

2. 委員会の活動

(1) 第 22 回日韓国際シンポジウムの開催

2016 年 7 月 9 日（土）、日本大学法学部（三崎町キャンパス）において、本学会と韓国言論学会の共催による第 22 回日韓（韓日）国際シンポジウム「メディアと政治、再考」を開催した（詳細は日韓シンポジウム実行委員会報告を参照）。

(2) 国際ジャーナル創刊号の編集・発行

第 35 期理事会決定を受け、アジア地域のマス・コミュニケーション研究者の交流等を目的とした英文学術雑誌 *Asian Journal of Journalism and Media Studies* の創刊号（電子版）の刊行作業を行っている。創刊準備号は 2015 年 3 月から <http://www.jmscom.org/en/ajjm/index.html> に公開中。

国際ジャーナル編集委員会

委員長：内藤 耕（東海大学）
委員：黄 盛彬（理事・職責）
鈴木雄雅（理事・職責）
川端美樹（目白大学）
鈴木弘貴（十文字学園女子大学）
中村登志哉（名古屋大学）

顧問：伊藤陽一（国際教養大学）
濱田純一（BPO）
渡辺武達（同志社大学）
Rodney Tiffen（University of Sydney）

(3) 第23回日韓国際シンポジウムの開催準備

2017年8月26日（土）、韓国ソウル市淑明女子大学にて開催予定の第23回日韓国際シンポジウム（韓国言論学会との共催）に向けて同実行委員会を設け準備を進めている。

(4) IAMCRでのジャパンセッションの報告会員の審査

2016年7月27日（木）から7月31日（日）まで、英国レスター大学で開催されたIAMCR（International Association for Media and Communication Research）大会で設置したジャパンセッションで報告する会員の審査を行った。審査の結果下記3名の派遣を決定した。

吉本秀子（山口県立大学）「日本降伏に関する集合的記憶— 沖縄と日本本土における占領期メディア政策の比較から—」

永井健太郎（早稲田大学）「地球温暖化へのメディア・アテンションを描く—1988年から2010年までの新聞報道から—」

三谷文栄（慶應義塾大学）「慰安婦問題をめぐるメディア言説の変容—第一次・第二次安倍政権を事例に—」

(5) 内川芳美基金国際学会報告奨励金の審査

上記奨励金の応募に対する審査を行った。審査の結果、下記の報告に対する助成を決定した。

林三博会員（コーネル大学）「The Battle with Interiority : Modernism in Japanese Propaganda Films during World WarII」（Society for Cinema and Media Studies（アメリカ合衆国シカゴ市、フェアモントホテル）2017年3月22日～3月26日）における報告。

(6) 日韓共同研究に対する助成

2014年度より継続してきた下記の日韓共同研究1件に対して15万円の助成を行った。また、2017年度より開始される新たな共同研究の公募も行った。

山中千恵（仁愛大学）／金秀貞（忠南大学）「ドラマ・マンガにおける「食」表象に見る日韓社会」

（鈴木雄雅）

日韓国際シンポジウム実行委員会

1. 委員会の構成（所属は就任時のもの）

委員長：山本賢二（理事・日本大学）
副委員長：鈴木雄雅（理事・上智大学）
 黄 盛彬（理事・立教大学）
委員：伊藤陽一（国際教養大学）
 小川浩一
 小黒 純（同志社大学）
 金山 勉（立命館大学）
 小泉恭子（大妻女子大学）
 古賀純一郎（茨城大学）
 小林聡明（日本大学）
 鈴木弘貴（十文字学園女子大学）
 金 相美（名古屋大学）
 竹川俊一（立命館アジア太平洋大学）
 田中則広（日本放送協会）
 内藤 耕（東海大学）
 中村登志哉（名古屋大学）
 森 類臣（立命館大学）
 山中千恵（仁愛大学）

2. 委員会の活動

2016年7月9日（土）、第22回日韓（韓日）国際シンポジウム「メディアと政治、再考」を日本大学法学部（三崎町キャンパス）において韓国言論学会との共催により開催した。日韓共同研究報告に5名、2つのセッション（「若者層の政治とメディア」「政治の中のメディア、メディアの中の政治」）に10名、総合討論「メディア政治、再考」に3名が登壇し、活発な議論が展開された。参加者は日韓あわせて75名であった。韓国言論学会からは、趙盛謙会長はじめ報告者、討論者ら20名が参加した。

（鈴木雄雅）

研究活動委員会

1. 委員会の構成

委員長：橋元良明（理事・東京大学）

委員：各研究部会担当理事（◎は部会長）

[理論研究部会担当]

◎難波功士（関西学院大学）、渡邊久哲（上智大学）

[ジャーナリズム研究・教育部会担当]

◎阿部圭介（日本新聞協会）

[放送研究部会担当]

◎笹田佳宏（日本民間放送連盟）、谷岡理香（東海大学）

[メディア史研究部会担当]

◎河崎吉紀（同志社大学）、山口誠（獨協大学）

[メディア倫理法制研究部会担当]

伊藤高史（同志社大学）、◎上原伸元（東京国際大学）

[メディア文化研究部会担当]

石田佐恵子（大阪市立大学）、◎小川博司（関西大学）

[ネットワーク社会研究部会担当]

◎大谷奈緒子（東洋大学）、橋元良明（東京大学）

2. 委員会の活動

2016年度の研究活動委員会の活動は、各研究部会が提案する研究発表会におけるワークショップ、及び研究会開催の調整を行った。

各研究部会の活動は次のとおりである。※「活動の概要」における所属は開催時のもの。

理論研究部会

1. 研究部会の構成

部会長：難波功士（理事・関西学院大学）

副部会長：渡邊久哲（理事・上智大学）

幹事：国枝智樹（大正大学）

小寺敦之（東洋英和女学院大学）

佐藤友紀（日本民間放送連盟）

東園子（大阪大学）
前田至剛（流通科学大学）
岩間優希（中部大学）

2. 活動の概要

2-1 研究会

(1) 第35期第10回研究会

テーマ：「メディアという視点から平和博物館をどう捉えるか」

日時：2016年12月17日(土) 15:00～17:00

会場：中部大学名古屋キャンパス

司会者：難波功士（関西学院大学）

問題提起者：岩間優希（中部大学）

報告者：福島在行（広島平和記念資料館）

2-2 ワークショップ

(1) 2016年度秋季研究発表会（2016年10月29日（土）、帝京大学八王子キャンパス）

テーマ：「現代社会における身体『変工』と身体イメージ『消費される身体』
の観点から—」

司会者：前田至剛（流通科学大学）

問題提起者：阿部勘一（成城大学）

ジャーナリズム研究・教育部会

1. 研究部会の構成

部会長：阿部圭介（理事・日本新聞協会）

幹事：五十嵐浩司（大妻女子大学）

小川明子（名古屋大学）

片野利彦（日本民間放送連盟）

烏谷昌幸（慶應義塾大学）

水島久光（東海大学）

2. 活動の概要

2-1 ワークショップ

- (1) 2016 年度秋季研究発表会 (2016 年 10 月 29 日 (土)、帝京大学八王子キャンパス)

テ ー マ: 「報道組織が求める『優秀な人材』とジャーナリズムの今後を考える」

司 会 者: 谷岡理香 (東海大学)

問題提起者: 畑仲哲雄 (龍谷大学) ※ 放送研究部会との共同企画

- (2) 2017 年度春季研究発表会 (2017 年 6 月 18 日 (日)、新潟大学五十嵐キャンパス)

テ ー マ: 「大学のジャーナリズム教育とメディアの現場との接点

— 専修大学人文・ジャーナリズム学科のカリキュラム編成と出版現場
の経験から—

司 会 者: 阿部圭介 (日本新聞協会)

問題提起者: 植村八潮 (専修大学)

放送研究部会

1. 研究部会の構成

部 会 長: 笹田佳宏 (理事・日本民間放送連盟)

副部長: 谷岡理香 (理事・東海大学)

幹 事: 境真理子 (桃山学院大学)

飯田豊 (立命館大学)

岩崎貞明 (専修大学、メディア総合研究所)

砂川浩慶 (立教大学)

北出真紀恵 (東海学園大学)

2. 活動の概要

2-1 研究会

- (1) 第 35 期第 7 回研究会

テ ー マ: 「映画とテレビから考える 1964 年=東京オリンピックの時代」

日 時: 2016 年 9 月 23 日 (金) 18:30~20:00

会 場: 立教大学池袋キャンパス 10 号館 X107 教室

司 会 者: 笹田佳宏 (日本民間放送連盟オリンピック担当)

報 告 者: 日高勝之 (立命館大学)

2-2 ワークショップ

- (1) 2016年度秋季研究発表会（2016年10月29日（土）、帝京大学八王子キャンパス）
テーマ：「報道組織が求める『優秀な人材』とジャーナリズムの今後を考える」
司会者：谷岡理香（東海大学）
問題提起者：畑仲哲雄（龍谷大学） ※ジャーナリズム研究・教育部会との共同企画

- (2) 2017年度春季研究発表会（2017年6月18日（日）、新潟大学五十嵐キャンパス）
テーマ：「臨時災害放送局から考える地域ジャーナリズム」
司会者：谷岡理香（東海大学）
問題提起者：大内斎之（新潟大学 博士研究員）
討論者：市村元（関西大学）

メディア史研究部会

1. 研究部会の構成

部会長：河崎吉紀（理事・同志社大学）
副部会長：山口誠（理事・獨協大学）
幹事：片山慶隆（関西外国語大学）
佐藤卓己（京都大学）
白戸健一郎（筑波大学）
浜田幸絵（島根大学）
福間良明（立命館大学）
本田毅彦（京都女子大学）
山本昭宏（神戸市外国語大学）

2. 活動の概要

2-1 研究会

- (1) 第35期第13回研究会
テーマ：『『勤労青年』のメディア史研究—その可能性を考える』
日時：2017年5月13日(土) 14:30～16:30
会場：立命館東京キャンパス教室4
司会者：高井昌吏（東洋大学）
問題提起者：小林直毅（法政大学）
山本昭宏（神戸市外国語大学）
討論者：福間良明（立命館大学）

2-2 ワークショップ

- (1) 2016 年度秋季研究発表会 (2016 年 10 月 29 日 (土)、帝京大学八王子キャンパス)
テ ー マ:「近代帝国のメディア史的研究の進展と、その可能性」
司 会 者: 松永智子 (東京経済大学)
問題提起者: 本田毅彦 (京都女子大学)
討 論 者: 河崎吉紀 (同志社大学)

- (2) 2017 年度春季研究発表会 (2017 年 6 月 18 日 (日)、新潟大学五十嵐キャンパス)
テ ー マ:「オリンピック/戦争の記憶—オリンピックをめぐる語りの変容—」
司 会 者: 石川徳幸 (日本大学)
問題提起者: 浜田幸絵 (島根大学)
討 論 者: 山本昭宏 (神戸市外国語大学)

メディア倫理法制研究部会

1. 研究部会の構成

部 会 長: 上原伸元 (理事・東京国際大学)
副部会長: 伊藤高史 (理事・同志社大学)
幹 事: 魚住真司 (関西外国語大学)
大塚一美 (山梨学院大学)
玉川博章 (日本大学)
本間謙介 (日本民間放送連盟)
山田隆司 (創価大学)

2. 活動の概要

2-1 研究会

- (1) 第 35 期第 8 回研究会
テ ー マ:「TPP の締結に伴う著作権の非親告罪化とポップカルチャー分野の二次創作を巡る問題について」
日 時: 2016 年 9 月 13 日(金) 14:30~16:30
会 場: 同志社大学東京オフィスセミナー室
司 会 者: 玉川博章 (日本大学)
報 告 者: 山田太郎 (前参議院議員)

(2) 第35期第12回研究会

テ ー マ：「ネット炎上の実像と課題」

日 時：2017年3月3日(金) 15:30～17:00

会 場：同志社大学東京オフィスセミナー室

司 会 者：上原伸元（東京国際大学）

報 告 者：田中辰雄（慶應義塾大学）

2-2 ワークショップ

(1) 2016年度秋季研究発表会（2016年10月29日（土）、帝京大学八王子キャンパス）

テ ー マ：「サーバー録画時代のビデオ証拠採用

—裁判で映像が多用される今日の状況から考える—」

司 会 者：本間謙介（日本民間放送連盟）

問題提起者：本橋春紀（日本民間放送連盟）

討 論 者：韓永學（北海学園大学）

(2) 2017年度春季研究発表会（2017年6月18日（日）、新潟大学五十嵐キャンパス）

テ ー マ：『『表象の文脈化』に何ができるか

—韓国公共放送の「8・15」ドキュメンタリーと『歴史認識』の分析から—」

司 会 者：伊藤高史（同志社大学）

問題提起者：崔銀姫（佛教大学）、美馬秀樹（東京大学）

討 論 者：毛利嘉孝（東京藝術大学）

メディア文化研究部会

1. 研究部会の構成

部 会 長：小川博司（理事・関西大学）

副部会長：石田佐恵子（理事・大阪市立大学）

幹 事：石田あゆう（桃山学院大学）

岡井崇之（奈良県立大学）

溝尻真也（目白大学）

村田麻里子（関西大学）

吉光正絵（長崎県立大学）

2. 活動の概要

2-1 研究会

(1) 第35期第9回研究会

テ ー マ：「視覚メディアのモード変化とその社会文化的影響を考える」

日 時：2016年10月15日(土) 14:00～17:00

会 場：関西大学梅田キャンパス (KANDAI MeRISE) 6階 601教室

司 会 者：岡井崇之 (奈良県立大学)

報 告 者：酒井健宏 (名古屋シネマテーク)

討 論 者：西山哲郎 (関西大学)

(2) 第35期第11回研究会

テ ー マ：「ポスト〈カワイイ〉時代のメディア文化を考える」

日 時：2017年2月17日(金) 15:30～19:00

会 場：大阪市立大学梅田サテライト

司 会 者：吉光正絵 (長崎県立大学)

報 告 者：西原麻里 (愛知学泉大学)

永田夏来 (兵庫教育大学)

討 論 者：高馬京子 (明治大学)

2-2 ワークショップ

(1) 2016年度秋季研究発表会 (2016年10月29日(土)、帝京大学八王子キャンパス)

テ ー マ：「メディアとしてのビデオ映像の保存・所有をめぐる感覚の歴史と現在」

司 会 者：溝尻真也 (目白大学)

問題提起者：永田大輔 (日本学術振興会特別研究員 (DC) ・筑波大学 院生)

討 論 者：飯田豊 (立命館大学)

(2) 2017年度春季研究発表会 (2017年6月18日(日)、新潟大学五十嵐キャンパス)

テ ー マ：「メディアとしての空間と公共性—建築・インフラ・サイン—」

司 会 者：村田麻里子 (関西大学)

問題提起者：谷川竜一 (金沢大学新学術創成研究機構)

討 論 者：宮田雅子 (愛知淑徳大学)

ネットワーク社会研究部会

1. 研究部会の構成

- 部会長：大谷奈緒子（理事・東洋大学）
副部会長：橋元良明（理事・東京大学）
幹事：浅岡隆裕（立正大学）
遠藤薫（学習院大学）
小笠原盛浩（関西大学）
白石信子（日本放送協会）
関谷直也（東京大学）
田村和人（フォアキャスト・コミュニケーションズ）

2. 活動の概要

2-1 ワークショップ

- (1) 2016年度秋季研究発表会（2016年10月29日（土）、帝京大学八王子キャンパス）
テーマ：「ネット上での熟議民主主義の実践とその可能性」
司会者：浅岡隆裕（立正大学）
問題提起者：梅津顕一郎（宮崎公立大学）
- (2) 2017年度春季研究発表会（2017年6月18日（日）、新潟大学五十嵐キャンパス）
テーマ：「“Post-Truth”とジャーナリズム—『偽ニュース』から現代のネットメディアを考える—」
司会者：関谷直也（東京大学）
問題提起者：藤代裕之（法政大学）
討論者：藤村厚夫（スマートニュース）

（橋元良明）

内川芳美基金運営委員会

1. 委員会の構成（所属は就任時のもの）

委員長：大石 裕（会長：慶應義塾大学）
委 員：藤田真文（総務担当理事：法政大学）
有山輝雄
大井眞二（日本大学）
田中義久（法政大学名誉教授）
谷藤悦史（早稲田大学）
濱田純一（BPO）
春原昭彦（上智大学名誉教授）

※委員会の構成は職責による変更を除き、2015-16年度基金運営委員会に基づく。

2. 委員会の活動

- (1) 2016年10月8日（土）に2016年度第1回委員会を開催し、2015年度決算、2016年度予算を承認した。第6回内川賞選考委員を決定した。
- (2) 2017年4月8日（土）に2017年度第1回委員会を開催し、2016年度決算、2017年度予算を承認した。2016年度内川芳美基金国際学会報告奨励金の助成候補者、第6回内川賞受賞候補者を承認した。

[内川芳美基金]（2016年4月1日～2017年3月31日）

〈収入の部〉

2015年度からの繰越金	7,225,981 円
2016年度利息	16 円
計	7,225,997 円

〈支出の部〉

2016年度支出	
事務諸経費	137,233 円
審査用書籍代	188,088 円
国際学会報告奨励金	35,764 円
計	361,085 円

2016年度残金	6,864,912 円
----------	-------------

（総務担当理事）

第6回内川芳美記念マス・コミュニケーション学会賞選考委員会

1. 委員会の構成（所属は就任時のもの）

委員長：大井眞二（日本大学）

委員：有山輝雄

加藤晴明（中京大学）

黒田 勇（関西大学）

竹下俊郎（明治大学）

谷藤悦史（早稲田大学）

濱田純一（BPO）

村松泰子（日本女性学習財団）

2. 選考経過

2-1. 選考対象図書

- (1) 原則として、マス・コミュニケーションならびにジャーナリズム研究に大きく寄与した作品。対象作品は単著、共著、編著の単行本、資料集などの作品。
- (2) 受賞対象者は、日本マス・コミュニケーション学会の会員であること。
- (3) 受賞対象者は、原則として50歳代までとする。
- (4) 受賞対象作品は過去2年間（2015年1月1日から2016年12月31日まで）に刊行されたもの。

[了解事項] 機関・団体の刊行物及び翻訳、物故者の著作は除外する。

2-2. 上記基準に従い、事務局が作成したリストをもとに、計4回の委員会を開催して審査を行った結果、次の2作品を受賞候補に選定した。（50音順）

大澤聡『批評メディア論：戦前期日本の論壇と文壇』（岩波書店、2015年）

津田正太郎『ナショナリズムとマスメディア：連帯と排除の相克』（勁草書房、2016年）

（大井眞二）

選挙管理委員会報告

1. 委員会の構成

委員長：山田健太（理事・専修大学）

委員：橋元良明（理事・東京大学）

李洪千（東京都市大学）

河合大介（東京大学）

津田正太郎（法政大学）

2. 委員会の活動

「日本マス・コミュニケーション学会規約」（以下、「規約」）の第14条、及び「理事候補者および監事候補者選出細則」（以下、「細則」）に基づき、第36期理事候補者選挙を実施した。

理事改選の行われる年の1月1日現在における正会員は選挙権及び被選挙権を有するが、役員改選の行われる年の1月1日現在において、3年以上会費を滞納している正会員と、国外居住の正会員は選挙権、被選挙権ともに有さない（「細則」第3条）。また、1月1日現在で居住地が不明の正会員は、東西いずれの選挙区に居住しているかを確定できないため、今回の選挙では、選挙権、被選挙権とともに有さないものとして扱った（第27期第15回理事会決定）。したがって、2017年1月1日現在における正会員1197名のうち、3年以上会費を滞納している正会員30名、国外居住の正会員13名、居住地不明の正会員32名、は選挙権、被選挙権ともに有しないことになり、今回の選挙における有権者数は1122名となった。

今回の選挙において、国内に居住する有権者数は、東選挙区が788名、西選挙区334名となるため、東選挙区に居住する有権者は東選挙区に居住する会員の中から14名を、西選挙区に居住する有権者は西選挙区に居住する会員の中から6名を得票順に選出し、理事候補者として決定することになった（「細則」第4条、第7条）。

2017年2月28日（火）に投票を締め切り（当日消印有効）、3月4日（土）に慶應義塾大学において選挙管理委員会により開票作業が行われた結果、投票総数276票（東選挙区190票、西選挙区86票）、有効投票数268票（東選挙区183票、西選挙区85票）で、上位得票者20名（東選挙区14名、西選挙区6名）を理事候補者として選出し、本人への通知を行った。また、3月16日（土）13:00から慶應義塾大学において、選挙による理事候補者で組織する推薦委員会が開催され、推薦による理事候補者3名と監事候補者2名を選出した（「細則」第9条、第10条）。

3. 理事・監事候補者選出結果（五十音順）

1. 選挙により選出された理事候補者

◆東地区（14名）

李 光鎬（慶應義塾大学）
大谷 奈緒子（東洋大学）
音 好宏（上智大学）
金平 茂紀（早稲田大学）
小林 直毅（法政大学）
鈴木 秀美（慶應義塾大学）
内藤 耕（東海大学）
黄 盛彬（立教大学）
藤田 真文（法政大学）
水島 宏明（上智大学）
水越 伸（東京大学）
吉見 俊哉（東京大学）
米倉 律（日本大学）
渡邊 久哲（上智大学）

◆西地区（6名）

石田 あゆう（桃山学院大学）
黒田 勇（関西大学）
佐藤 卓己（京都大学）
谷本 奈穂（関西大学）
福間 良明（立命館大学）
渡辺 武達（同志社大学）

2. 推薦により選出された理事候補者（3名）

赤木 孝次（日本新聞協会）
井上 裕之（日本放送協会）
佐藤 友紀（日本民間放送連盟）

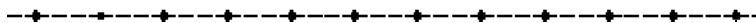
3. 推薦により選出された監事候補者（2名）

古川 良治（成城大学）
柳澤 伸司（立命館大学）

（山田健太）

2016 年度決算（案）

〈 収入の部 〉	(単位：円) 2016 年度予算	(単位：円) 2016 年度決算
[会 費 収 入]		
正 会 員 会 費 収 入	11,000,000	11,050,000
賛 助 会 員 会 費 収 入	800,000	890,000
会 費 収 入 計	11,800,000	11,940,000
 [事 業 収 入]		
出 版 物 売 上 収 入	30,000	33,500
研 究 発 表 会 参 加 費 収 入	1,600,000	1,536,000
日 韓 国 際 シ ン ポ ジ ヴ ム 参 加 費 収 入	100,000	98,500
事 業 収 入 計	1,730,000	1,668,000
 [雑 収 入]	10,000	40,016
[国際シンポジウム積立金からの繰り入れ]	1,500,000	1,500,000
[記念事業積立金からの繰り入れ]	1,500,000	1,500,000
[前年度からの繰越金]	3,087,976	3,087,976
合 計	19,627,976	19,735,992



〈 支出の部 〉	(単位：円) 2016 年度予算	(単位：円) 2016 年度決算
[管 理 費]		
事 務 局 管 理 費	3,000,000	2,546,865
人 件 費	700,000	731,500
通 信 費	300,000	330,918
交 通 費	600,000	512,600
消 耗 品 費	50,000	35,329
印 刷 費	50,000	28,080
振 込 手 数 料	80,000	80,460
パ ソ コ ン 管 理 ・ 運 用 費	80,000	0
慶 弔 費	30,000	0
雑 費	50,000	72,000
雑 損 失	0	30
管 理 費 計	4,940,000	4,337,782
 [事 業 費]		
会 報 発 行 費 (5 回)	1,400,000	1,342,144
機 関 誌 発 行 費 (2 回)	3,800,000	3,331,930
国 際 活 動 費	1,500,000	1,200,000

総会・研究発表会運営費	1,700,000	1,561,105
内訳 交付金(春)	600,000	600,000
交付金(秋)	350,000	350,000
諸経費	750,000	611,105
理事選挙費	500,000	466,109
会員名簿刊行費	200,000	0
日韓国際シンポジウム運営費	1,500,000	2,240,034
委員会活動費	1,500,000	911,710
国際ジャーナル発行費	1,500,000	0
事業費計	13,600,000	11,053,032
[その他]		
優秀論文賞経費	150,000	90,000
会合費	100,000	10,313
その他計	250,000	100,313
支出合計	18,790,000	15,491,127
[次年度繰越金]	837,976	4,244,865
合計	19,627,976	19,735,992

【特別事業】

(単位：円)

国際シンポジウム

収入 積立金繰越	6,934,134
利息	98
計	6,934,232
支出 国際シンポジウム積立金からの繰り入れ	1,500,000
振込手数料	
残額	5,434,232
記念事業	
収入 積立金繰越	5,168,888
支出 記念事業積立金からの繰り入れ	1,500,000
残額	3,668,888

2016年度収支につき、監査の結果、適正であると認めました。

2017年4月15日

古川 良治 ⑤
柳澤 伸司 ⑤

2017 年度予算（案）

<p>（収入の部）</p> <p style="text-align: right;">（単位：円）</p> <p>[会 費 収 入]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">正 会 員 会 費 収 入</td> <td style="text-align: right;">11,000,000</td> </tr> <tr> <td>賛 助 会 員 会 費 収 入</td> <td style="text-align: right;">800,000</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">会 費 収 入</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">計 11,800,000</td> </tr> </table> <p>[事 業 収 入]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">出 版 物 売 上 収 入</td> <td style="text-align: right;">30,000</td> </tr> <tr> <td>研 究 発 表 会 参 加 費 収 入</td> <td style="text-align: right;">1,600,000</td> </tr> <tr> <td>日 韓 国 際 シ ン ポ ジ ウ ム 参 加 費 収 入</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">事 業 収 入</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">計 1,630,000</td> </tr> </table> <p>[雑 収 入]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">[国 際 シ ン ポ ジ ウ ム 積 立 金 か ら の 繰 り 入 れ]</td> <td style="text-align: right;">10,000</td> </tr> <tr> <td>[記 念 事 業 積 立 金 か ら の 繰 り 入 れ]</td> <td style="text-align: right;">1,500,000</td> </tr> <tr> <td>[前 年 度 か ら の 繰 越 金]</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">収 入 合 計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">4,244,865</td> </tr> </table> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>-----</p> <p>（支出の部）</p> <p>[管 理 費]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">事 務 局 管 理 費</td> <td style="text-align: right;">3,000,000</td> </tr> <tr> <td>人 件 費</td> <td style="text-align: right;">700,000</td> </tr> <tr> <td>通 信 費</td> <td style="text-align: right;">300,000</td> </tr> <tr> <td>交 通 費</td> <td style="text-align: right;">600,000</td> </tr> <tr> <td>消 耗 品 費</td> <td style="text-align: right;">50,000</td> </tr> <tr> <td>印 刷 費</td> <td style="text-align: right;">50,000</td> </tr> <tr> <td>振 込 手 数 料</td> <td style="text-align: right;">80,000</td> </tr> <tr> <td>パ ソ コ ン 管 理 ・ 運 用 費</td> <td style="text-align: right;">80,000</td> </tr> <tr> <td>慶 弔 費</td> <td style="text-align: right;">30,000</td> </tr> <tr> <td>雑 費</td> <td style="text-align: right;">50,000</td> </tr> <tr> <td>雑 損 失</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">管 理 費</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">計 4,940,000</td> </tr> </table>	正 会 員 会 費 収 入	11,000,000	賛 助 会 員 会 費 収 入	800,000	会 費 収 入	計 11,800,000	出 版 物 売 上 収 入	30,000	研 究 発 表 会 参 加 費 収 入	1,600,000	日 韓 国 際 シ ン ポ ジ ウ ム 参 加 費 収 入	0	事 業 収 入	計 1,630,000	[国 際 シ ン ポ ジ ウ ム 積 立 金 か ら の 繰 り 入 れ]	10,000	[記 念 事 業 積 立 金 か ら の 繰 り 入 れ]	1,500,000	[前 年 度 か ら の 繰 越 金]	0	収 入 合 計	4,244,865	事 務 局 管 理 費	3,000,000	人 件 費	700,000	通 信 費	300,000	交 通 費	600,000	消 耗 品 費	50,000	印 刷 費	50,000	振 込 手 数 料	80,000	パ ソ コ ン 管 理 ・ 運 用 費	80,000	慶 弔 費	30,000	雑 費	50,000	雑 損 失	0	管 理 費	計 4,940,000	<p>[事 業 費]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">会 報 発 行 費（5 回）</td> <td style="text-align: right;">1,400,000</td> </tr> <tr> <td>機 関 誌 発 行 費（2 回）</td> <td style="text-align: right;">3,800,000</td> </tr> <tr> <td>国 際 活 動 費</td> <td style="text-align: right;">1,500,000</td> </tr> <tr> <td>国 際 ジャ ー ナ ル 発 行 費</td> <td style="text-align: right;">1,500,000</td> </tr> <tr> <td>総 会 ・ 研 究 発 表 会 運 営 費</td> <td style="text-align: right;">1,700,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">内 訳</td> <td style="text-align: right;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">交 付 金（春）</td> <td style="text-align: right;">600,000</td> </tr> <tr> <td>交 付 金（秋）</td> <td style="text-align: right;">350,000</td> </tr> <tr> <td>諸 経 費</td> <td style="text-align: right;">750,000</td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td>理 事 選 挙 費</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td>会 員 名 簿 刊 行 費</td> <td style="text-align: right;">200,000</td> </tr> <tr> <td>日 韓 国 際 シ ン ポ ジ ウ ム 運 営 費</td> <td style="text-align: right;">1,000,000</td> </tr> <tr> <td>委 員 会 活 動 費</td> <td style="text-align: right;">1,500,000</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">事 業 費</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">計 12,600,000</td> </tr> </table> <p>[その他]</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">優 秀 論 文 賞 経 費</td> <td style="text-align: right;">100,000</td> </tr> <tr> <td>会 合 費</td> <td style="text-align: right;">100,000</td> </tr> <tr> <td>70 周 年 記 念 事 業 積 立 金</td> <td style="text-align: right;">500,000</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">そ の 他 計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">700,000</td> </tr> </table> <hr style="border-top: 1px solid black;"/> <p style="text-align: right;">支 出 合 計 18,240,000</p> <p>[次 年 度 繰 越 金] 944,865</p> <hr style="border-top: 1px solid black;"/> <p style="text-align: right;">合 計 19,184,865</p>	会 報 発 行 費（5 回）	1,400,000	機 関 誌 発 行 費（2 回）	3,800,000	国 際 活 動 費	1,500,000	国 際 ジャ ー ナ ル 発 行 費	1,500,000	総 会 ・ 研 究 発 表 会 運 営 費	1,700,000	内 訳	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">交 付 金（春）</td> <td style="text-align: right;">600,000</td> </tr> <tr> <td>交 付 金（秋）</td> <td style="text-align: right;">350,000</td> </tr> <tr> <td>諸 経 費</td> <td style="text-align: right;">750,000</td> </tr> </table>	交 付 金（春）	600,000	交 付 金（秋）	350,000	諸 経 費	750,000	理 事 選 挙 費	0	会 員 名 簿 刊 行 費	200,000	日 韓 国 際 シ ン ポ ジ ウ ム 運 営 費	1,000,000	委 員 会 活 動 費	1,500,000	事 業 費	計 12,600,000	優 秀 論 文 賞 経 費	100,000	会 合 費	100,000	70 周 年 記 念 事 業 積 立 金	500,000	そ の 他 計	700,000
正 会 員 会 費 収 入	11,000,000																																																																																		
賛 助 会 員 会 費 収 入	800,000																																																																																		
会 費 収 入	計 11,800,000																																																																																		
出 版 物 売 上 収 入	30,000																																																																																		
研 究 発 表 会 参 加 費 収 入	1,600,000																																																																																		
日 韓 国 際 シ ン ポ ジ ウ ム 参 加 費 収 入	0																																																																																		
事 業 収 入	計 1,630,000																																																																																		
[国 際 シ ン ポ ジ ウ ム 積 立 金 か ら の 繰 り 入 れ]	10,000																																																																																		
[記 念 事 業 積 立 金 か ら の 繰 り 入 れ]	1,500,000																																																																																		
[前 年 度 か ら の 繰 越 金]	0																																																																																		
収 入 合 計	4,244,865																																																																																		
事 務 局 管 理 費	3,000,000																																																																																		
人 件 費	700,000																																																																																		
通 信 費	300,000																																																																																		
交 通 費	600,000																																																																																		
消 耗 品 費	50,000																																																																																		
印 刷 費	50,000																																																																																		
振 込 手 数 料	80,000																																																																																		
パ ソ コ ン 管 理 ・ 運 用 費	80,000																																																																																		
慶 弔 費	30,000																																																																																		
雑 費	50,000																																																																																		
雑 損 失	0																																																																																		
管 理 費	計 4,940,000																																																																																		
会 報 発 行 費（5 回）	1,400,000																																																																																		
機 関 誌 発 行 費（2 回）	3,800,000																																																																																		
国 際 活 動 費	1,500,000																																																																																		
国 際 ジャ ー ナ ル 発 行 費	1,500,000																																																																																		
総 会 ・ 研 究 発 表 会 運 営 費	1,700,000																																																																																		
内 訳	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">交 付 金（春）</td> <td style="text-align: right;">600,000</td> </tr> <tr> <td>交 付 金（秋）</td> <td style="text-align: right;">350,000</td> </tr> <tr> <td>諸 経 費</td> <td style="text-align: right;">750,000</td> </tr> </table>	交 付 金（春）	600,000	交 付 金（秋）	350,000	諸 経 費	750,000																																																																												
交 付 金（春）	600,000																																																																																		
交 付 金（秋）	350,000																																																																																		
諸 経 費	750,000																																																																																		
理 事 選 挙 費	0																																																																																		
会 員 名 簿 刊 行 費	200,000																																																																																		
日 韓 国 際 シ ン ポ ジ ウ ム 運 営 費	1,000,000																																																																																		
委 員 会 活 動 費	1,500,000																																																																																		
事 業 費	計 12,600,000																																																																																		
優 秀 論 文 賞 経 費	100,000																																																																																		
会 合 費	100,000																																																																																		
70 周 年 記 念 事 業 積 立 金	500,000																																																																																		
そ の 他 計	700,000																																																																																		

Ⅱ. 募集のお知らせ

1. 2017 年度秋季研究発表会（2017 年 10 月 28 日〔土〕、成城大学）における個人・共同研究発表の募集（再掲）

1. 発表資格

(1)日本マス・コミュニケーション学会会員であり、応募年度までの学会費を完納していること。

(2)非会員の場合は、応募と同時に学会への入会申し込みをすること（入会方法については学会サイトを確認すること）。

※応募の採否、及び採用された場合の発表順序などについては、企画委員会にご一任願います。

2. 発表テーマ

本学会の趣旨に沿った分野の内容で、未発表のものに限ります。

3. 発表時間

原則として、個人研究発表は 30 分（発表 20 分、質疑 10 分）、共同研究発表は 40 分（発表 30 分、質疑 10 分）とします。ただし、発表本数を考慮して時間短縮を行う場合もあります。

4. 応募要領

日本マス・コミュニケーション学会のサイト <http://www.jmscom.org/> から「個人・共同研究発表への応募文書」(Word ファイル)をダウンロードして、同文書に記載されている 1～6 の項目すべてについて、【留意事項】を遵守して記入し、記入済みのファイルを電子メールに添付して送付してください。送付先と応募締切は次のとおりです。

※記入されていない項目があったり、【留意事項】が守られていない場合は、採択を不可とすることがありますのでご注意ください。

[送付先及び応募締切]

送付先：国際文献社 日本マス・コミュニケーション学会 会員業務係

Email: mscom-post@bunken.co.jp (TEL 03-5937-0329)

応募締切：2017 年 7 月 13 日（木）※必着厳守（受領確認のメールを送ります。もし受領確認メールが届かない場合には、再送してください。なお、受領確認メールは自動応答システムによって送信されるものではありません。）

※採否は、8月末までにお知らせします。

5. 注意事項

- 研究発表は、研究が終了したものについて行うことを原則とします。ただし、継続中の研究の一部に関して発表する場合は、重要な知見が得られ、独立した研究として発表可能なものであることを条件とします。
- 研究発表は、得られた知見を中心に行ってください。
- レジュメ、資料等は発表者が所定の部数を用意して、発表当日に会場に持参するか、あるいは定められた期日までに開催校の所定の部署へ送付してください。期日及び送付先、資料等の所定の部数は、後日採用のお知らせとともにご案内しますので、必ずご確認ください。なお、開催校・学会事務局ではコピーを受け付けないのでご注意ください。
- 研究発表会直前になっての視聴覚機器利用の新規申し込みは、開催校に対して大きな負担をかけることとなりますので、利用の有無は応募時点で確定してください。
- 応募が採用された場合、「キーワード」と「発表要旨」を会報・プログラムに掲載します。
- 「研究発表論文集」のオンライン公開について
発表予定者の方々には口頭発表に先立ち「研究発表論文(予稿)」を作成していただき、それを pdf ファイル化して学会サイトで閲覧できるようにします。これは、①会員が発表内容を事前にある程度詳しく知ること、当日にどの発表を聴くかの選択や、会場での質疑・議論の活性化に資すること、②学会発表を、発表者が研究業績として業績一覧等により記載しやすく、また他の研究者にとっても引用しやすい形式にすること、の2点を目的としたものです。発表申込みが承認された方には「研究発表論文」作成依頼をお送りいたします。なにとぞご協力をお願いします。
- 一つの研究発表会での個人・共同研究発表において、発表者として複数のエントリーをすることはご遠慮ください。
- 英語による口頭発表も受け付けます。その場合には発表要旨も英語で作成していただきます。英語による発表を希望する会員は、応募される前に上記の【国際文献社 日本マス・コミュニケーション学会 会員業務係】へその旨をメールでご連絡ください。

2. 2017 年度秋季研究発表会（2017 年 10 月 28 日〔土〕、成城大学）におけるワークショップのテーマ案募集（再掲）

ワークショップは結論を出すことが目的ではなく、参加者の自由な討論から、多角的な視点や知見を得ることを目的としています。したがって、今後発展が期待される課題や新しい問題を掘り起こすようなテーマでも結構です。

ワークショップの登壇者は、司会者 1、問題提起者 1 の 2 人体制を原則とします。討論者を設ける場合は、必要性、候補者の人選の理由を、テーマ案要旨のなかで簡潔に説明してください。その場合も、ワークショップの実施形態（一部制、二部制のどちらにするのか）、テーマ案の内容などを企画委員会で検討の上、討論者を設けずに、司会者と問題提起者による実施をお願いする場合があります。また、同様の点を検討の上、討論者のないテーマ案にも討論者を設けることを企画委員会からご提案する場合があります。

※テーマ案の応募件数、テーマ案の内容、開催校の事情を総合的に判断して、企画委員会が、一部制、二部制のどちらか、あるいはその併用を含めてワークショップのプログラムを編成しますので、100～150 分で実施可能なテーマ案をご提案ください。

1. 提案者資格

- (1) 日本マス・コミュニケーション学会会員であること。
- (2) 応募の時点で、応募年度までの学会費を完納していること。

※応募の採否については、企画委員会にご一任願います。

2. テーマ

本学会の趣旨に沿ったものであること。

3. 応募要領

日本マス・コミュニケーション学会のサイト <http://www.jmscom.org/> から「ワークショップへの応募文書」(Word ファイル)をダウンロードして、同文書に記載されている 1～6 の項目すべてについて、【留意事項】を遵守して記入し、記入済みのファイルを電子メールに添付して送付してください。送付先と応募締切は次のとおりです。

※記入されていない項目があったり、【留意事項】が守られていない場合は、採択を不可とすることがありますのでご注意ください。

[送付先及び応募締切]

送付先：国際文献社 日本マス・コミュニケーション学会 会員業務係

Email：mscom-post@bunken.co.jp (Tel 03-5937-0329)

応募締切：2017年7月13日(木) ※必着厳守(受領確認のメールを送ります。もし受領確認メールが届かない場合には、再送してください。なお、受領確認メールは自動応答システムによって送信されるものではありません。)

※採否は、8月末までにお知らせします。

4. 注意事項

- 採用されたテーマについて、「要旨」の加筆修正をお願いする場合があります。
- レジюме、資料等は、問題提起者・討論者が所定の部数を用意して、ワークショップの当日に会場に持参するか、あるいは定められた期日までに開催校の所定の部署へ送付してください。期日及び送付先、資料等の所定の部数は、後日採用のお知らせとともにご案内しますので、必ずご確認ください。なお、開催校・学会事務局ではコピーを受け付けないのでご注意ください。
- 研究発表会直前になっての視聴覚機器利用の新規申し込みは、開催校に対して大きな負担をかけることとなりますので、利用の有無は応募時点で確定してください。
- 応募が採用された場合、「キーワード」と「テーマ案要旨」を会報・プログラムに掲載します。
- 現在、ワークショップの司会者・問題提起者・討論者は、日本マス・コミュニケーション学会会員に限らせていただいております。つきましては、非会員の方は入会手続きをしていただきますようお願いいたします。

3. 『マス・コミュニケーション研究』第92号原稿募集のお知らせ(再掲)

次の要領で『マス・コミュニケーション研究』第92号(2018年1月発行予定)の原稿を募集します。投稿に当たっては、『マス・コミュニケーション研究』の最新号と学会サイトに掲載されている投稿規程及び執筆要領を遵守してください。なお、投稿原稿の掲載の可否・順番などは、編集委員会が決定します。掲載が決まった論文が多数の場合、一部の論文の掲載を次号へ送ることもあります。

1. 投稿資格

- (1) 投稿申込の時点で、日本マス・コミュニケーション学会会員であること。
- (2) 投稿時点で、投稿年度までの学会費を完納していること。
- (3) 共著の場合は、すべての著者が(1)(2)の投稿資格を満たしていること。

【留意事項】

- 非会員の方が投稿資格を得るためには、投稿申込の締切より前に開催される理事会で、入会が承認される必要があります。理事会は毎月開催されているわけではありませんのでご注意ください。
- 2017 年度秋季研究発表会での個人・共同研究発表に応募される方が投稿を希望される場合は、編集委員会までお問い合わせください。

※ 編集委員会 Email : editormscom@jmscom.org

2. 投稿原稿

(1) テーマ 本学会の趣旨に添うもの。

[参考] マス・コミュニケーション学会規約第3条

本学会は新聞・放送・映画・雑誌等ジャーナリズムおよびマス・コミュニケーションに関する研究、調査ならびにその研究者相互の協力を促進し併せて外国の学会との連絡を図り、以て我が国文化の向上に貢献することを目的とする。

(2) 内 容 未公開の論文

「論文」とは、独創性・新規性のある研究成果を論理的・実証的に展開した内容のもの。

(3) 形 式

- ① 原稿を記述するための言語は、日本語とする。
- ② 原則として、Word あるいはテキスト形式で作成した原稿に限る。
- ③ 原稿は、1 頁あたり 40 字×35 行で作成する。
- ④ 図表等は、本文中に、内容が判別できる大きさと挿入する。なお、本文中に電子データで図表等を挿入することができない場合は、図表等が挿入されるべきスペースを空白にし、郵送するハードコピーの該当箇所に貼り込む。
- ⑤ 別途掲載の「執筆要領」に記された点に注意して記述する。

(4) 分 量

上記 (3) の形式で作成した原稿 15 枚以内 (タイトル・本文・注・参考文献・図表等を含む)。

【留意事項】

「1 頁あたり、40 字 x 35 行で作成する。」との決まりが守られていない投稿が散見されます。ワープロソフトで 1 頁を 40 字 x 35 行に書式設定し、その設定された大きさの文字を使用しているかを確認の上、ご投稿ください。設定した文字と、実際に使用している文字の大きさが異なっている結果、1 行あたりの文字数が 40 文字を越えてしまい、書式違反となっているケースもあります。また、提出するハードコピーも、規定通りになっているか

をあらためてご確認ください。ソフトウェア上の都合などで、どうしても設定が指定通りにならない場合は、必ずその旨、原稿提出時にあわせて編集委員会にご連絡ください。連絡なく、提出された電子ファイルまたはハードコピーに書式上の不備が発見された場合は、不受理といたします。

3. 投稿申込要領

今回、投稿を希望される方は、下記に掲げる①～④の内容を記載した投稿申込の文書を、Wordあるいはテキスト形式で作成し、そのファイルを電子メールに添付して送付してください。送付先と申込締切は次のとおりです。

[送付先及び申込締切]

送付先：国際文献社内 日本マス・コミュニケーション学会 会員業務係

Email: mscom-post@bunken.co.jp (TEL 03-5937-0329)

申込締切：2017年7月6日（木）※必着厳守（受領確認のメールを送ります。もし受領確認メールが届かない場合には、再送してください。）

[投稿申込の文書の記載内容]

- ① 論文タイトル（仮題でも可）
- ② 執筆者の氏名、所属機関・職名、自宅の住所及び電話番号、Email アドレス
- ③ 論文の概要（400字程度）
- ④ 目次（簡単なもので可）

【留意事項】

論文の提出を辞退する場合は、投稿締切までに、電子メールで、上記の送付先へその旨を連絡してください。

4. 投稿要領

原稿を投稿する際には、①原稿（タイトル・本文・注・参考文献・図表等）のハードコピー4部を送付し、かつ、②原稿のファイル（Wordあるいはテキスト形式）を電子メールに添付して送付してください（①②とも必須）。送付先と投稿締切は次のとおりです。

[送付先及び投稿締切（※①②とも必須）]

(1) 原稿のハードコピー（4部）

送付先：〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 (株)国際文献社内

日本マス・コミュニケーション学会 会員業務係 (TEL 03-5937-0329)

投稿締切：2017年7月20日（木）※当日消印有効

(2) 原稿のファイル（電子メールに添付して送付）

送付先：国際文献社内 日本マス・コミュニケーション学会 会員業務係

Email : mscom-post@bunken.co.jp (TEL 03-5937-0329)

投稿締切：2017年7月20日（木）※必着厳守（受領確認のメールを送ります。もし受領確認メールが届かない場合には、再送してください）

【留意事項】

- 上記の(1) (①原稿と②表紙の両方のハードコピー4部) と(2) (①原稿と②表紙の両方のデジタルデータのファイル) のうち、いずれか一方でも締切に間に合わなかった場合は、投稿を受け付けませんので、十分にご注意ください。また、ハードコピーの部数が足りない場合など、投稿内容に不備がある場合も投稿を受け付けませんので、併せてご注意ください。
- 原稿のファイルの容量が大きくて電子メールで送付できない場合は、CD等の媒体にファイルを保存して、ハードコピーと一緒に送付してください。その場合は、②（原稿のファイル）の投稿締切までに、送付先へ電子メールでその旨を連絡してください。連絡がなかった場合は、投稿を受け付けないこともありますのでご注意ください。
- 原稿には表紙をつけ、表紙には、タイトル、執筆者の氏名、所属機関・職名、自宅の住所及び電話番号、Emailアドレス、を記載してください。
- 査読者に投稿者が誰であるかを特定されないことがないように、原稿（表紙を除く部分）のヘッダー部や本文中に、投稿者の氏名・所属等を記載しないでください。この要件が満たされていなかった場合は、投稿を受け付けないこともありますのでご注意ください。（氏名・所属などの記載が必要な場合には、掲載が決まって、初校を校正する際に加筆してください。）

※氏名、所属などが判別されやすい記述の例

「拙著『(文献名)』で論じたように」「本論文は科研費（研究代表者名）による共同研究の一部である。」「本調査は著者が所属する（大学名）の学生を対象にした。」

5. その他

- 査読の結果、一部修正または修正無しで掲載が認められた論文については、後日、英文のタイトルと氏名、要旨（300語以内の英文と同内容の和文）の提出をお願いすることになります。英文要旨は、主題、目的、分析方法、結論を簡潔に記し、可能な限りネイティブ・スピーカーのチェックを受けて提出してください。
- お送りいただいた原稿等は原則としてお返しいたしませんので、ご承知おきください。
- 『マス・コミュニケーション研究』は年2回の発行を予定しており、それに合わせて、投稿原稿の締め切りを年2回設定します。

Ⅲ. 第 23 回(2017 年)日韓国際シンポジウム実行委員会について

第 23 回 (2017 年) 日韓国際シンポジウム実行委員会の構成は以下の通りです。

委員長：山本賢二 (日本大学)

副委員長：鈴木雄雅 (上智大学)

副委員長：黄盛彬 (立教大学)

委員：伊藤陽一 (国際教養大学)

小川浩一

小黒純 (同志社大学)

金山勉 (立命館大学)

小泉恭子 (大妻女子大学)

古賀純一郎 (茨城大学)

鈴木弘貴 (十文字学園女子大学)

内藤耕 (東海大学)

竹川俊一 (立命館アジア太平洋大学)

田中則広 (日本放送協会)

中江桂子 (成蹊大学)

森類臣 (立命館大学)

山中千恵 (仁愛大学)

IV. 会議・会合の報告

1. 第 35 期第 12 回理事会議事録

日時：2017 年 3 月 4 日（土）13：30～15:55

場所：慶應義塾大学三田キャンパス 研究室棟 7 階 745

【報告事項】

1. 国際文献社への業務委託費

- 藤田総務担当理事より、国際文献社に業務委託費、通信費など計 277,749 円を支払ったことが報告された。

2. 会報 289 号の発行

- 藤田総務担当理事より、会報 289 号が発行されたことが報告された。

3. 会費納入状況

- 藤田総務担当理事より、会費納入状況（2017 年 1 月 1 日現在、正会員は 1197 名、2016 年度会費納入者が 958 名⇒納入率 80.03%）が説明され、未納者に督促が行なわれたことが報告された。

- 藤田総務担当理事より、賛助会員の納入状況が報告され、24 社中 23 社から例年通りの振込みがあったことが報告された。

4. 各委員会・研究部会からの報告

- 伊藤編集委員長より、『マス・コミュニケーション研究』92 号の査読体制を決定したことが報告された。

- 石田理事より、メディア文化研究部会主催の第 11 回研究会が実施されたことが報告された（参加 24 名）。

- 上原理事より、メディア倫理法制研究部会主催の第 12 回研究会が実施されたことが報告された（参加 16 名）。

- 藤田総務担当理事より、第 5 回内川芳美記念マス・コミュニケーション学会賞選考委員会の選考状況（第 2 回）が報告され、第 2 回選考委員会にて第 1 次候補が決定されたことが説明された。

【審議事項】

1. 第 35 期第 11 回理事会議事録案について

- 藤田総務担当理事より、第 35 期第 11 回理事会議事録案について説明があり、承認された。

2. 国際ジャーナルの編集状況

- 鈴木国際委員長より、国際ジャーナルの編集状況について報告が行なわれ、2016 年度内

の発行は難しいため、35 期中、5 月刊行を目標としたいこと、これにあわせて関連予算の一部を 2017 年度に持ち越したいとの要請が国際ジャーナルの編集長より行なわれたことが説明され、承認された。

3. 日韓国際シンポジウムについて

- 鈴木担当理事より、2017 年 8 月 26 日（土）ソウルの淑明女子大学にて開催される第 23 回日韓国際シンポジウムの準備状況について説明が行なわれた。シンポジウムのテーマ案について提案が行なわれ承認された。また前回と同程度の渡航助成金を出すことについて提案が行なわれ、承認された。さらに日韓の共同研究助成金について、15 万円を奨励金として支給（1 件につき 2 年間で 15 万円）することが承認された。

4. 学会誌の査読体制の見直しについて

- 伊藤編集委員長より、投稿数の増加に伴う査読体制見直しの必要性が提案され、意見交換が行なわれた。編集委員会で話し合われた「3 名体制を見直すこと」、「同一人物の同一テーマの投稿回数に制限を設けること」などを中心に議論が行なわれ、今後、編集委員会で継続的に議論を行い、次回の理事会で再度審議することとなった。

5. 2017 年度春季研究発表会について

- 小林企画委員長より、新潟大学へのアクセスのために、バスをチャーターすることが提案され、承認された。費用の負担の仕方については、企画委員会と主催大学が協議の上で決定することとなった。

- 小林企画委員長より、個人、共同研究発表の受付状況について説明が行なわれ、18 件の申し込みがあり、企画委員会において 3 本が不採用と判断された理由が説明された。うち 1 件の採否について活発な審議が行なわれたが、大石会長および藤田総務担当理事の提案により、申請者に 1 週間程度の期間でリライトを要請し、再度提出された応募書類について持ち回りの審議を行なった上で最終決定をすることとなった。

- 小林企画委員長より、ワークショップの受付状況が説明され、12 件の申し込みの上、12 件を採択したこと、ただし、討論者や司会者が会費未納のケースが 2 件あるため、この 2 件の扱いをどうするべきかについて審議が求められた。審議の結果、再度会費納入の督促を行なうこと、また督促に対する返答が無い場合の対応については、企画委員会に一任することとなった。

- 小林企画委員長より、前回の理事会で会長より要請のあった「トランプ現象」とメディアについてのシンポジウム案が説明された。内容と登壇者候補については大筋で承認が得られ、詳細は今後企画委員会で詰めることとなった。

- 小林企画委員長より、既存のワークショップの方式を見直す問題提起についての説明が行なわれた。セッション型研究発表、ミニシンポ型ワークショップという 2 つの新しい形について説明が行なわれ、5 月の理事会でさらに詳細な議論を行なった上で、来期への申し送りとする事となった。

6. 研究発表と論文募集時期の修正について

- 藤田総務担当理事より、2017年度秋季研究発表会の募集と『マス・コミュニケーション研究』92号の募集の締め切りについて、例年とほぼ同じ時期でよいかという確認が行なわれた。これに対して、企画委員会、編集委員会サイドより検討と準備の作業を余裕をもって行なうために締切をもう少し前倒しにしてもらえるほうがありがたいとの意見が出され、日程の前倒しが承認された。

7. 学会名簿のデータベース化について

- 藤田総務担当理事より、学会名簿のデータベース化について説明が行なわれた。山田理事に事務局が作成した個人情報の取扱いに関する学会内規の原案を検討してもらい、再度理事会にて最終的な確認、承認の手続きを取る事となった。また関心分野については今後原則公開が義務付けられることを改めて周知した上で、データベース化に踏み切る事となった。

8. IAMCRの日本開催について

- 大石会長より、IAMCRの日本開催を2020年に実現することが提案され承認された。渡辺武達会員を經由してIAMCRにこの旨を伝えることも承認された。開催時期はオリンピックの後のほうがいいという意見も出たが、開催時期は交渉しながら決める事となった。

9. 学会70周年記念

- 藤田総務担当理事より、学会70周年記念事業について大規模なイベントをやるか否か、やるならば今から予算の積み立てを行なう必要があるとの提案が行なわれた。詳細は次期に申し送ることになるものの、250万円規模のイベントを想定して50万ずつ毎年計上していくことを総会で提案することとなった。

10. 学会誌論文転載の申し出

- 藤田総務担当理事から團康晃会員（東京大大学院）の『マス・コミュニケーション研究』掲載論文の転載の申し出が説明され、承認された。

11. 会員の入退会希望について

- 入退会希望者の資料が回覧され、入会申込者7名、退会希望者14名の入退会が承認された。

【連絡事項】

1. 「会報」第289号の原稿募集について

- 藤田総務担当理事より会報289号に掲載を希望する原稿の締切が告知された。

2. 委員会・研究部会の活動費について

- 藤田総務担当理事より、委員会・研究部会の活動費についての注意事項が説明された。
- 伊藤理事より4、5、6月の間の部会の活動予算についてどのように考えればよいかとの質問があり、藤田総務担当理事より、各委員会において必要があれば適宜判断して使用して欲しいとの返答がなされた。

3. 今後の理事会予定

- 藤田総務担当理事より、次回の理事会の日程が連休明け5月13日（土）に変更されている点がアナウンスされ、6月17日（土）に第14回理事会が新潟大学で開催されることが告知された。

（出席者）理事＝阿部、石田、上原、大石、大谷、小川、小林、河崎、笹田、鈴木、谷岡、難波、橋元、藤田、松浦、村上、山口、山田、山本、渡辺。監事＝柳澤。

（欠席者）理事＝土屋、黄、山本。監事＝古川。

2. 第35期第13回理事会議事録

日時：2017年5月13日（土）15:30～17:20

場所：慶應義塾大学三田キャンパス 東館6階G-Lab

【報告事項】

1. 国際文献社への業務委託費

- 藤田総務担当理事より、国際文献社に業務委託費、通信費など計576,255円を支払ったことが報告され関連資料が回覧された。

2. 会報290号の発行

- 藤田総務担当理事より、「会報」第290号（2017年4月24日）が発行されたことが報告され、掲載内容について説明が行なわれた。

3. J-STAGEへの移行について

- 藤田総務担当理事より、2017年3月15日（水）に開催されたJ-STAGE利用説明会に出席したことが報告され、今後のデータ移行・公開作業の見通しが説明された。

4. 会員検索システム

- 藤田総務担当理事より、会員検索システムの構築を国際文献社に依頼したことが報告された。

5. 事務局員の交代

- 藤田総務担当理事より、国外研究のため山腰修三会員が事務局員（会計業務）を退任し、丸山友美会員（法政大学）に事務局員就任を依頼したことが報告された。

6. 企画委員会からの報告

- 山田企画委員長より、シンポジウム1の司会者を山田企画委員長が担当することになったこと、貸切送迎バスのチャーターを無料で実施するようにしたこと、宿泊施設の仮押さえ枠を理事のために確保しているので希望者がいれば申請して欲しいことが報告された。

7. 編集委員会からの報告

- 伊藤編集委員長より、査読体制の見直しと関連して、3週間募集の締切を前倒しにして対応することになった前回理事会の承認内容が確認された。また91号の編集状況が順調に進んでいること、92号の特集が、春の大会のシンポジウム2の内容になることが決定したことが報告された。

8. 国際委員会からの報告

- 鈴木国際委員長より、日韓国際シンポの準備状況について報告が行なわれた。また、国際ジャーナルの査読作業について全ての審査が終わったことが報告され、35期中の発行がやや難しい見通しであることが報告された。

9. 第6回内川芳美記念マス・コミュニケーション学会賞選考委員会について

- 藤田総務担当理事より、内川賞選考について2名の受賞候補が決定されたことが報告された。2017年3月11日(土)に第3回選考委員会、4月8日(土)第4回選考委員会が開催され、最終候補が決定したことが報告された。

10. 2017年度第1回内川基金運営委員会

- 藤田総務担当理事より、内川基金運営委員会の活動について報告が行なわれた。4月8日(土)に第1回委員会が開催され、2017年度予算案などが審議されたことが説明された。

11. IAMCR 日本開催について

- 大石会長より IAMCR の日本開催に関連して、渡辺武達会員がワスコ会長への連絡役を果たしてくれることを承諾してくれたことが報告された。

【審議事項】

1. 会員の入退会希望について

- 入退会希望者の資料が閲覧され、入会申込者7名、退会希望者22名の入退会が承認された。

2. 賛助団体への加盟依頼について

- 大石会長より、日本学術協財団より賛助団体に加盟するよう案内がきたことが説明され、予算の都合上加盟を見送る決定を行ったことが報告され、承認された。

3. 選挙管理委員会からの報告

- 山田選挙管理委員長より、第36期の理事選挙の実施について報告が行なわれた。2017年3月4日(土)16時より開票作業が行なわれ、3月16日(木)に推薦委員会が開催されて推薦による理事候補、監事候補が決定されたことが報告された。

- この報告に対して、鈴木理事より、全体としての投票人数の少なさへの懸念が示され、東西に分けて選挙をやるのが果たして妥当であるのかとの問題提起が行なわれ、その関連で東西選挙区それぞれの最高得票率と最小得票率について情報を開示して欲しいとの要望が出された。また、柳澤監事より、現状の選挙制度が、理事としての自覚をもって活動してくれる人物を選べる仕組みになっているか否かを改めて考える機会とすべきではないかとの意見も出された。これに対し、大石会長より、投票率をあげていく努力はすべきだが、

現状における情報開示はマイナスの効果も大きいため、今回即座に情報開示することは見送るのが妥当であるとの判断が示され、その上で、今後投票率改善のための選挙制度改革について継続審議していくこと、またその中で選挙結果についてどこまでを理事会で共有することが合理的であるかについても議論を行なっていくべきことが提案され、承認された。

4. 2017年度総会資料について

- 藤田総務担当理事より、2017年春季総会の資料案が提示され、修正箇所が各理事より指摘された。
- 山田理事より総会資料、大会プログラムの編集作業において、所属表記の方法が悩ましい問題であったことが報告された。研究機関名まで正確に書いてくれないと困るという要望が少なからずあったこと、また非常勤講師という肩書きを明記して欲しいという要望がしばしばあるという実情が指摘され、これが原則大学名のみ表記するという既存の編集方針と矛盾してしまうことが説明された。今後の方向性として、これら個別の意向を無視することはできないので、個別の意向を聞きながら、あくまでも可能な範囲で、全体としての形式的統一感をできるだけ守るように配慮することが望ましいとの見解が示された。これに対して藤田総務担当理事からも所属表記について各人のニーズが多様化してきている現状に対応する必要があるとの見解が示された。

5. 2016年度決算報告／2017年度予算案について

- 古川監事より、4月15日に2016年度決算案についての会計監査が実施され、内容に問題がなかったことが報告され、決算案が承認された。
- 古川監事より、部会の研究予算消化が不足気味であること、活動が消極的な部会があることに懸念が示された。
- 藤田総務担当理事より、部会の活動を活発化するような予算使用の工夫を考える必要性があることが指摘された。上原理事からは、謝金の基準を示してもらえると使いやすいとの指摘がなされた。これに対して、大石会長は、学術学会であることを基本にすれば、1、2万円を目安にして（交通費は別問題として処理）、それ以上の高額であればその都度研究担当理事に報告して、理事会で議論して判断するという見解が提示され、これを次期の理事会に申し送りとして、継続審議することが提案され、承認された。
- 藤田総務担当理事より2017年度予算案について説明が行なわれ、次のような議論が行なわれた後に、承認された。
- 柳澤監事より、繰越金が大きいため、その目的を常に明示していかないと「会費を下げろ」という意見が出てきかねないことが指摘された。他方で、鈴木理事より、IAMCR開催をやるならば1千万規模の資金が必要で、現行の予算状況ではむしろ資金不足ではないかとの見解が示された。これに対し、大石会長より、IAMCRの準備委員会を発足させて、そこで早急に予算の見直しをつける必要があることが指摘され、その上で、多額の繰越金の

「使用目的」については、IAMCR の日本開催のことを示唆するのがもっとも理に適っているとの見解が示された。

6. 第 35 期第 12 回議事録（案）について

- 藤田総務担当理事より、第 35 期第 12 回議事録（案）について報告され、一部修正を踏まえた上で、承認された。

【連絡事項】

1. 36 期理事会への引き継ぎ事項について

- 藤田総務担当理事より、第 36 期への理事会としての引継ぎ事項について 6 月の理事会で提起して欲しいとの要請が行なわれた。

2. 「会報」第 291 号（2017 年 8 月中旬発行予定）の原稿募集について

- 藤田総務担当理事より、会報 291 号の原稿募集について、希望者は 2017 年 6 月 17 日（土）までに藤田・鳥谷宛に送付するよう案内が行なわれた。

3. 委員会・研究部会の活動費について

- 藤田総務担当理事より、委員会・研究部会の活動費の使用方法について注意喚起が行なわれた。

4. 次回の理事会予定

- 藤田総務担当理事より、次回第 14 回理事会が 6 月 17 日（土）に新潟大学にて開催されることが案内された。

【追加記録事項】

1. 推薦理事の辞退と選定のやり直し

- 第 13 回理事会で承認された総会資料に記載されていた第 36 期の推薦理事のひとりから、理事会後に辞退の申し入れがあった。これを受け、選挙管理委員会は推薦委員会による新たな候補者の選定を行い理事会に報告した。その上で、理事会の持ち回り審議により、第 13 回理事会で承認された総会資料の推薦理事候補者名を差し替えた。

（出席者）理事＝阿部、伊藤、上原、大石、大谷、小川、河崎、笹田、鈴木、谷岡、難波、黄、藤田、村上、山田、渡邊。監事＝古川、柳澤。

（欠席者）理事＝石田、土屋、橋元、松浦、山口、山本。

3. 第 35 期第 14 回理事会議事録

日時：2017 年 6 月 17 日（土）11：10～12:05

場所：新潟大学五十嵐キャンパス 附属中央図書館会議室

【報告事項】

1. 会員検索システムの開始

● 藤田総務担当理事より、6 月 1 日から My ページによる会員検索システムの供用が開始されたこと、これに伴い簡易印刷版名簿の作成が国際文献社に依頼されたことが報告された。

2. 春季研究発表会参加者

● 藤田総務担当理事より、事前申し込み 121 名、委任状 165 通であることが報告された。

3. 編集委員会からの報告

● 伊藤編集委員長より、91 号の進捗状況が問題なく進んでいること、92 号の特集が新潟大会シンポジウム 2 をもとに行なわれることが報告された。また 92 号の投稿論文の告知が HP にて急ぎ行なうよう事務局側に要請された。

【審議事項】

1. 第 35 期第 13 回議事録（案）について

● 藤田総務担当理事より、議事録案が提示され、山田理事より、追加記録事項として記入された推薦理事の選び直しについて説明が行なわれ、内容について承認された。

2. 総会議事資料について

● 藤田総務担当理事より、総会の議事進行の段取りについて説明が行なわれた。

3. ワークショップ司会変更について

● 笹田理事より、ワークショップ 8「臨時災害放送局から考える地域ジャーナリズム」の司会者が谷岡理事（東海大学）から笹田理事（日本大学）に変更した事情が説明され、承認された。

4. 個人情報の取扱いに関する内規について

● 山田理事より会員検索システム導入に伴い作成される個人情報の取扱いに関する内規の内容について説明が行なわれ、再委託先からの情報漏えいを防ぐための効果的な対策を検討する必要性が説明された。その上で、業務委託契約に再委託に関する規定があるので、これを踏まえて国際文献社への口頭の呼びかけ、次期事務局への引継ぎなどで問題意識の共有をはかることの重要性が確認された。

5. 英文ジャーナルの転載許可について

- 藤田総務担当理事より、英文ジャーナル準備号への Won Yong-jin 教授の掲載論文 (*Hallyu: Numerous Discourses, One Perspective*) の転載許可願が出ていることが報告され、承認された。

6. 第 23 回 (2017) 日韓シンポ参加者への渡航費宿泊費補助について

- 藤田総務担当理事より、今年度の日韓国際シンポジウムは韓国側にて開催のため、前回の韓国開催の際に定めた基準に沿って渡航費補助を行なう方針であることが説明され、また鈴木国際委員長より補助金の配分に関する運用上の補足説明が行なわれた。古川監事からの指摘を踏まえ、予算を大幅に超えない形で補助を実施するという原則が確認された上で、前回同様の渡航費補助を行なうことが承認された。

7. 第 23 回 (2017) 日韓シンポ・プログラム

- 鈴木国際委員長より、第 23 回日韓国際シンポのプログラム案が提示され、説明が行なわれた。また 8 月 24~27 日にかけてのスケジュールが説明された。セッションの討論者など現状未定の内容については今後決定次第、詳細を HP に掲載することとなり、プログラム案の概要については承認された。

8. 36 期理事会への引き継ぎ事項について

- 藤田総務担当理事より、小林前企画委員長から提示されたセッション方式、ミニシンポ形式など新たなワークショップの方式を次年度の春の学会から導入することを 36 期理事会に引き継ぐことが提案され、承認された。

- 藤田総務担当理事より、部会の予算使用基準について、研究会の交通費、講師謝金について次期に引き継ぐ内容が説明された。

- 鈴木国際委員長より、国際ジャーナルの発行が 35 期中に終わらなかったものの、編集委員会は完成まで継続されることが報告された。また 36 期には編集作業を早期に着手するよう引き継ぐことが提案された。国際ジャーナルの編集委員会をいずれ独立させる必要のあることも指摘され、この点についても次期理事会で検討してもらう必要のあることが確認された。

- 橋元理事より、マスコミ学会には「大会実行委員会」なるものが存在しないが、大会を実行する上で実働の中心となる若手に何の意味も役割も与えられていないのは不憫なので、大会実行委員会をつくってみてはどうかとの問題提起が行なわれた。この問題提起を受けて大石会長より、主催校の担当者に企画委員会の中に入れてもらう現在の形とのメリット、デメリットを対比した上でより適切な形を検討してもらうことを次期理事会に検討してもらうことが提案され、承認された。

9. 会員の入退会希望について

- 入会希望 12 人、退会希望 1 人の資料が回覧され、承認された。

10. 仮総会の実施について

- 藤田総務担当理事より、以下説明が行なわれた。総会開催の前日 2017 年 6 月 16 日現在

の会員数は1158名であり、総会成立にはその3分の1となる386名の出席が必要。しかしながら、総会開始予定時間の集計で、事前申し込みがあり受付で手続きをした会員78名、当日参加申し込みをした会員36名、委任状165通、計279名。定足数には107名の不足。その上で今回の総会を「仮総会」として実施し、総会議事内容について後日会員から承認を取り付けるまで、8月31日まで35期が形式上存続することが提案され、承認された。

11. 2018年度春の大会について

- 大石会長より、2018年度春の大会について、現在検討、交渉が順調に進んでいることが報告された。

(出席者) 理事=阿部、伊藤、上原、大石、大谷、小川、河崎、笹田、鈴木、難波、橋元、藤田、松浦、村上、山田、渡邊。監事=古川。

(欠席者) 理事=石田、谷岡、土屋、黄、山口、山本。監事=柳澤

以 上

V. 事務局からのお知らせ

1. 事務局体制について

1-1 業務委託先

会費納入の有無の確認や名簿情報の変更の受付、入退会の申請の受付、個人・共同研究発表及びワークショップ・テーマ案の応募文書の送付先、『マス・コミュニケーション研究』への投稿申込と原稿の送付先は、次の機関となります。

日本マス・コミュニケーション学会 会員業務係
〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 (株)国際文献社内
Tel : 03-5937-0329
Fax : 03-3368-2822
Email : mscom-post@bunken.co.jp

[受付時間] 土日祝日と年末年始(12月29日～1月3日)を除く、平日の9:00～17:00

1-2 学会事務局

*現在の学会事務局の以下の住所は、第36期理事会の発足に伴い、近日中に新しい住所に変更されますのでご注意ください。

日本マス・コミュニケーション学会事務局
慶應義塾大学 三田キャンパス 研究室棟
〒108-8345 東京都港区三田2丁目15-45
Email mscom@jmscom.org
学会サイト <http://www.jmscom.org/>

2. 会費納入について

2-1 会費の納入方法

毎年の4月末頃に、国際文献社から、払込取扱票を切り取るようにした学会専用の請求書を会員宛に発送し、併せて、請求書を送付させていただいたことをメールでお知らせします。また、過去の年度の会費が滞納されている場合は、未納の年度と金額が請求書に記載されます。

※これまでどおり、郵便局に備え付けの払込取扱票（水色）に下記の情報をご記入の上、年会費（10,000 円）を払い込んでいただくことも可能です。なお、どなたが払い込んだのかを特定する必要があるため、払込取扱票に氏名を必ず記載してください。原則として領収書は発行しておりませんが、別途必要な場合は、払込取扱票の連絡欄にその旨を記載していただくか、【国際文献社内 日本マス・コミュニケーション学会 会員業務係】へご連絡ください。

郵便振替口座番号：00100-7-407058

加入者名 ：日本マス・コミュニケーション学会

2-2 滞納分の会費について

もし過去の年度の会費が滞納されていた場合は、払い込まれた会費は、滞納分に優先的に充当されます。郵便局に備え付けの払込取扱票（水色）を使って滞納分の年会費を合わせて払い込まれる場合は、払込取扱票の連絡欄にその旨を記載していただければ幸いです。

2-3 70 歳以上の会員の会費について

ある年の4月1日から翌年の3月31日までに70歳の誕生日をお迎えになられる会員は、自己申告によって、その年度の会費から半額（5,000 円）になります。会費を払い込む際に、払込取扱票の連絡欄に、その年度中に70歳を迎えられる旨を記載し、払込金額を5,000 円としてください。なお、この措置は、自己申告をしていただいた年度からの適用となります（70歳を超えてから自己申告された場合、過去の年度に払い込まれた会費を遡って半額にすることはできません）。

2-4 会費納入状況の確認について

会員専用ホームページ（My Page） <https://www.bunken.org/jmscom/mypage/User> で会費納入状況を確認することができます。My Page を利用するには、郵便でお送りした ID（会員番号）とパスワードが必要です。ID、パスワードがご不明な場合は、【国際文献社内 日本マス・コミュニケーション学会 会員業務係】へその旨をお知らせください。再度、郵便にてお送りします。

※【国際文献社内 日本マス・コミュニケーション学会 会員業務係】に直接、会費納入状況を尋ねることもできます。

3. 名簿情報の変更について

所属先、職名、住所、電話、メールアドレスなどに変更が生じた場合は、会員専用ホームページ (My Page) <https://www.bunken.org/jmscom/mypage/User> を使って、登録されている名簿情報を変更してください。My Page を利用するには、郵便でお送りした ID (会員番号) とパスワードが必要です。ID、パスワードがご不明な場合は、【国際文献社内 日本マス・コミュニケーション学会 会員業務係】へその旨をお知らせください。再度、郵便にてお送りします。

※My Page を利用されない場合は、【国際文献社内 日本マス・コミュニケーション学会 会員業務係】宛に「名簿変更届」をご提出くださいますようお願いいたします。名簿変更届の提出要領は、学会サイト <http://www.jmscom.org/> の「住所・所属等の変更について」の頁をご参照いただくか、【国際文献社内 日本マス・コミュニケーション学会 会員業務係】にお問い合わせください。

4. 『マス・コミュニケーション研究』の発送について

『マス・コミュニケーション研究』は、各号が発行された年度の会費を払い込み済みの会員に対して発送されますので、会費が払い込まれた時期によって届く時期が変わってきます。また、過去の年度の会費が滞納されていた場合は、払い込まれた会費が充当される年度に発行された『マス・コミュニケーション研究』をその都度、発送します。もし、会費を払い込んだにも関わらずいつまで経っても『マス・コミュニケーション研究』が届かない場合は、お手数ですが、【国際文献社内 日本マス・コミュニケーション学会 会員業務係】へお問い合わせくださいますようお願いいたします。

5. 退会届について

特に書式はございませんので、退会を希望される旨を記載した文書に署名・捺印の上、【国際文献社内 日本マス・コミュニケーション学会 会員業務係】宛にお送りください。

6. 入会希望者に対する案内について

入会の方法や留意事項が、学会サイト <http://www.jmscom.org/> の「入会案内」の頁に掲載されておりますので、入会を希望される方がおられましたら、ご案内ください。

7. 学会事務局からの情報配信について

ご登録いただいているメールアドレスへ、事務局からのお知らせと、事務局宛に届いた情報をメールマガジンで配信し、学会サイトにも同様の情報を掲載しております。もし、メールマガジンの配信が不要な場合は、恐れ入りますが【国際文献社内 日本マス・コミュニケーション学会 会員業務係】宛にその旨をお知らせください。

※メールマガジンでの情報配信や学会サイトへの情報掲載を希望される場合は、その旨を学会事務局（mscom@jmscom.org）へご連絡ください。なお、お寄せいただいた情報によっては、配信・掲載をお断りさせていただく場合や、情報の形式を変更させていただく場合がございます。予めご了承ください。

VI. 会員関係

1. 入会者（公開可の情報のみ掲載）

*第13回理事会（2017年5月13日）、第14回理事会（2017年6月17日）にて承認された入会者。

洞ヶ瀬 真人

dogase0208@gmail.com

（自宅）

〒466-0011 愛知県名古屋市昭和区鶴羽町1-12-1-303

（所属）

博士研究員

名古屋大学大学院人文学研究科

〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町

電話 052-789-4881

FAX 052-789-4873

桑原 桃音

momone.k.t@gmail.com

（所属）

特任講師

流通科学大学商学部

〒651-2188 神戸市西区学園西町3丁目1番

神田 洋

kanda@edogawa-u.ac.jp

（自宅）

〒182-0021 東京都調布市調布ヶ丘4-23-13-A

TEL : 042-446-2166

（所属）

教授

江戸川大学メディアコミュニケーション学部

〒270-0198 千葉県流山市駒木474

TEL : 04-7152-9615

鹿島 千穂

chiho_kashima@hotmail.com

(所属)

フリーアナウンサー

山中 智省

wind503v@xg8.so-net.ne.jp

(所属)

専任講師

目白大学人間学部子ども学科

〒161-8539 東京都新宿区中落合 4-31-1

TEL : 03-5996-3152

FAX : 03-5996-3163

金 泰龍

caline@naver.com

(自宅)

〒113-0033 東京都文京区本郷 5-23-3 リヴェール本郷 401 号

(所属)

東京大学大学院学際情報学府博士課程在学中

引地 達也

hikichitatsuya@yahoo.co.jp

(自宅)

〒132-0013 東京都江戸川区江戸川 4-8-13

TEL : 03-6883-1116

FAX : 03-6883-1116

(所属)

上智大学大学院博士後期課程在学中

上席研究員

一般財団法人福祉教育支援協会

〒359-0037 埼玉県所沢市くすのき台 3-16-2-202

TEL : 04-2997-5180

FAX : 04-2997-5180

森田 典子

jkanolemon@gmail.com

(所属)

東京大学大学院学際情報学府博士課程

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

TEL : 03-5841-5938

藤戸 あや

fujito.a-cc@nhk.or.jp

(所属)

上級研究員

放送文化研究所メディア研究部

〒105-6216 港区愛宕 2-5-1 愛宕 MORI タワー16F

TEL : 03-5400-6844

FAX : 03-5472-4739

吉武 希

(所属)

上智大学院文学研究科新聞学専攻博士後期課程在学中

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 7 番 1 号

平石 冬樹

fuyu9115@gmail.com

(所属)

読売新聞東京本社編集局総務

〒100-8055 東京都千代田区大手町 1-7-1

山本 雄美

jjl10240.k-y@kfx.biglobe.ne.jp

(自宅)

〒814-0143 福岡県福岡市城南区南片江 2 丁目 14 番 16-411 号

TEL : 090-9724-5545

(所属)

福岡大学大学院法学研究科博士課程後期在学中

〒814-0180 福岡市城南区七隈 8 丁目 19 番 1 号

TEL : 092-871-6631 (代)

加登 英成

hidinari.kato@jcom.home.ne.jp

(自宅)

〒167-0032 東京都杉並区天沼 3-6-34

TEL : 03-6762-8837

(所属)

毎日放送東京支社

〒107-6328 東京都港区赤坂 5-3-1 赤坂 Biz タワー

TEL : 03-5561-1212

FAX : 03-5561-1211

原 京二

(所属)

中京テレビ放送コーポレートコミュニケーション部

〒453-8704 名古屋市中村区平池町 4 丁目 60 番 11

TEL : 052-588-4522

齊藤 絵理子

eriko@aoni.waseda.jp

(所属)

准教授

早稲田大学研究戦略センター

〒142-0051 東京都新宿区西早稲田 1-6-1

梁 建龍

ryoukenryuu1992@yahoo.co.jp

(自宅)

〒500-8185 岐阜県岐阜市元町 2 丁目 9 リエス岐阜元町 305 号室

TEL : 080-5297-3451

(所属)

岐阜大学大学院地域科学研究科修士課程

〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸 1-1

TEL : 058-293-3029

梅田 拓也

umedatakuya0429@gmail.com

(所属)

東京大学大学院学際情報学府博士課程在学中

〒113-8654 東京都文京区本郷 7-3-1

TEL : 03-5841-5938

FAX : 03-3811-5970

山本 夏生

sd161021@g.hit-u.ac.jp

(所属)

一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程在学中

〒186-8601 東京都国立市中 2-1

TEL : 042-580-8000

下山 進

Jzi01613@nifty.ne.jp

(自宅)

TEL : 090-5813-1265

FAX : 03-3999-2503

(所属)

文藝春秋国際局長

〒102-8008 千代田区紀尾井町 3-2-3

TEL : 03-3265-1211

FAX : 03-3265-6227

2. 退会者（公開可の情報のみ掲載）

*第13回理事会（2017年5月13日）、第14回理事会（2017年6月17日）にて承認された退会者。

浅岡	邦雄	自己都合
植田	康夫	自己都合
大野	弘義	自己都合
杉野	定嘉	自己都合
近津	統二	自己都合
千種	清美	自己都合
中島	善範	自己都合
青崎	保好	自己都合
朝桐	澄英	自己都合
飯田	良明	自己都合
池谷	知明	自己都合
甲斐	千代子	自己都合
高橋	光輝	自己都合
中田	彰生	自己都合
野山	智章	自己都合
林	法隆	自己都合
藤本	淳史	自己都合
三浦	文夫	自己都合
清田	治史	自己都合
鈴木	幹久	自己都合
山下	智正	自己都合
小林	義寛	自己都合
三上	俊治	自己都合